

とんからりん

サカタニ友の会 ニュース

十月(十月)は 特別の日

昭和49年 10月1日 祖父が酒屋を創業して

現在地で、酒屋と立飲み酒場を復活。「ワイン&フーズサカタニ」(写真③)を開店した。当時、酒類の安売りは、税務署や組合の方針で殆ど無かった時代。開店ときは、酒類・食品等を五日間 大特価で売出し、大盛況だった。その売り出し最中、左京区吉田(天龍教念)に住んでいた祖母が来た。が、話をすると何も無かった。



①昭14年の店・子供時代 ②昭31酒問屋(株)酒谷本店



③昭和52年(株)サカタニと、うどん屋

親会社の社長は、当時、酒卸業界で剛腕で知られたお方。私共の会社を傘下にしたのは、最終的に父名義の店の不動産を狙っている」と推理した。それを防ぐべく、3年後から、店の狭さを理由に、幾度となく会社の他所に移転を提案した。父の時代の棚上げ債務を減らした。そして最後は、非常手段を用いて、店を上島羽の地に移転ができた。移転の成功で、店の一階は空家。一階は、私の家族が住み様になった。私は、その後も移転した「酒卸会社」に通っていた。役員報酬月額が社内最高だが、会社が赤字で、賞与が無く、課税ゼロの所得だった。この状態では、子供が育てられないと、独立を計画していた。幸いに、以前に父が、売却した法人酒小売店が営業不振整理した際、その債務を引受け買収した。10月1日オープン開店が出来た。(酒問屋退職大売出しが終了)10月9日、少し店が落着いたので、吉田に住む祖母きぬを尋ねた。二時間余り話をし、祖母は大繁盛を喜ぶ。これからお客さん大切に商売してほしいよと言ひ、帰ろうとする私に、マテは多量やさかい、こんな物しか祝い物が出来んと、等と手製のチリ払いを呉れた。これは、店の掃除だけでなく、お前の、心の掃除にも使うのやでとてと言ひつて。

発行者 株式会社サカタニ 集西楽サカタニ ファミリーマート サカタニ京阪七条店 〒605-0993 京・東山区七条二丁目 電話 075-561-7974 URL www.sosake.jp/ E-mail info@sosake.jp

毎月発行の 会員新聞です 編集 酒谷義郎 yosirou@sosake.jp

第3日曜日開催日9月23日(定例:期9時~) 第128回:朝粥食へておシャベリ会(報告者) 講演・元読売テレビアナウンサー 羽川英樹さん、高木英智様



放送生活39年。入社4年目に伝説の深夜番組「11PM」で生放送の情報番組にかかわったことで鍛えられ、男性に情がこもった。批判も受けたが、露天風呂を有名にしたり、大阪初の全国放送でスポーツに気兼ねすることなく自由の質のよい番組があるそう。番組制で、テレビと作ができ、用したいとか、当日、準備さアが輝いても即完売と多彩な活動で人生でいた時を謳歌されている62歳の羽川代だったさんでした。

本日の講師はフリーアナウンサー、旅と食のコーディネーター、鉄道コラムニスト、フォークグループ活動と多彩な顔を持つ皆さんおなじみの羽川英樹さん。「放送業界の現状と裏側」と題して、プロの語り、持ち時間びつたり、自由自在の話術に引き込まれました。

又、始まったと思ひながら「はい」と応えた。祖母(83歳)が翌10日、宇治市の教会に行くこと知って、お気を付けてお行きや」と別れた。

翌10日、開店後初の休業日。大きな借金と今後の営業をどう進めるか頭が一杯だった。遅い昼食が終った時、電話のベル。休みのに誰やう出ると、父が「おぼあちゃん、宇治の教会で死んだ」と言つ。祖母は、教会の秋の大祭、お勤め式終了後、御参拝の信徒さん達に、お礼の挨拶前に、頭を下げ、皆さん今日は「おきに」と言つたまま、頭を上げず息を引き取った。

私(幼弟)の頃、産みの母と引き離され、祖母(83歳)が翌10日、宇治市の教会に行くこと知って、お気を付けてお行きや」と別れた。

とんつき 大騒ぎ、ふと前回は64年、東京五輪を思い出した。その年2月に結婚。長女が生まれた年でもあった。外からは、酒問屋の息子だったが、実質は「子会社」の従業員状態。住まいは、店の2階の半分弱。残りの場所は、父とその彼女が使っていた。

▽エンブレムで 女※とが使っていた。▽報酬は超低額。小遣いが取れない。毎晩、宛先は中央競馬会。競馬場指定席抽選用の「ガキ」を書いた。差出人は、知人友人の住所を借用して投函した。▽当たる確率は低い。▽指定席が買える。通知ハガキが来る。そのハガキをダラダラに売るか、指定席が欲しい人に売り、得たお金を小遣いにした。▽父から小遣いもお年玉も貰った記憶が無い。必ず仕事を命じたその報酬だけ。それも約束より減らして。後に一度私の娘(父の孫)にお年玉を呉れて驚いた。▽晩年、父は(彼女)と二度目の結婚。子供が(異母妹)出来た。住居と仕事場は、山科いづみ屋の名で酒屋を営業。その頃から家庭も商売も大事にして、よく働く人に変身した。▽が、血圧も高く年齢より早く老け、酒屋の仕事が重くなり、店運営は弟が参加し手伝った。そして父は63歳で亡くなった。▽父は、亡くなる前に酒問屋時代の未清算債務を見事に完済していた。そのお陰で、現在地の今の私の店がある。▽17歳差で、兄のような父だった。私は父の歳を既に18才越えた。が後10年頑張ろうぞ！だ。

ヨシちゃん ひとりごと



ちゃん、で呼べる友

昭21(3月)に貞教小学校(当時)

は国民学校卒業、今は81歳。偶々今年はその同窓会の世話役になった。私達は、戦時学童疎開、戦後も教育制度変革と戦争に振り回された世代。ヤット少し世間が落着いて、高校卒後に同窓会が出来た。そして戦時中では出来なかった修学旅行(伊勢神宮を卒業時の先生も参加で実施、以後も毎年同窓会は開かれていく。今年も集まる。写真は発会時)



高校卒業時(昭33)年3組のクラス会(裸木会)→糸クダが卒業後63年経つ今も毎年続いている。会名は卒業時担任・柳田先生の命名。三井寺大僧都とされた

男子は君「女子はさん」を付けていた。が、学校以外では、特に親しい友には、男女区別なく「ちゃん」で呼び、呼ばれた。私は、コラム題名の「ヨシちゃん」(店の人も親戚も)だった。が、今や「ちゃん」付けて呼ばれる人・呼ぶ人も、極めて少なくなった。男性はゼロだし、女性も二人だけ。
「ちゃん」は幼児や子供に対して呼びかけ語として、多く用いられている。お父ちゃんお母ちゃん親族の呼称と共に幼児や、極く親しい人に使わ

れることが多い。

最近、自分より高齢・地位の上の人にも平気で用いられている。総理大臣を「安倍ちゃん」と呼ぶ人もある。多分続く言葉からして、敬つて「ませんよ」との意味を込めてお使いになっているのだろうか。が、由、そうであつても、私は使わない。昭51年フジ本で向こう三軒両隣が流れていた。その頃の総理を「吉田ちゃん」とは誰とも言わなかった。今でも総理の「ちゃん」付けは、慎むべきと思う。

私が「ちゃん」で呼ぶ人は、特に親しいか、幼児の頃の遊び友達が多い。でも、殆ど遠くに行つてしまった。もし、その「ちゃん」達が、今も居て呉れたら、今より、もっと面白い仕事が出来たら、来ただろう。毎年、墓参りし、お前が居らんで仕事が進まん、だから、もうチヨと呼ぶな!と厳命。アイツらは、ヤツパリ親友。チャンと聞いて呉れている様だ。持つべきはまた。

稲荷山

ぶらり散策記⑫

越智薫史

稲荷神社といえ

ばギツネである。この

ギツネは稲荷の神さんのお使いであつて、稲荷の神さん本体ではない。氏神さんの狛犬のように神さんのお使いをする霊獣である。

稲荷の地元では「のギツネを眷属(ケン



ゾクさんと呼んでいる。親しみと尊崇の念を持つた呼び方である。

憲法九条は ノーベル平和賞候補 石動敬子



のインチキみたいな。子も孫もせつたく生まれな。たの胆に、ごめんねえこんな国で。落胆、忸怩たる思いの、一三日というのが「月見る月」

今日も朝顔は咲かなかった。風船がずらは無数の白い花をつけ、その丈も二階に届き、なお伸びんとしている。花も実も付き、葉っぱは大きくとも、胡瓜の収穫はたったの1本だった。千成ひょうたんの花はともかく実はまだだ。狭いところに種をまいたので、こうなのか、栄養素不足か、我が家の中秋の寸景をこの数か月、落ち着かぬ日々を過ごした。被災地みちのくへ合唱がメイソンの母校や病院訪問の6月、ニューヨーク在住の家族5人のひと月のホームステイ、俳句講座などに汲々としてつ、戦後70年という夏。大きくかぶさつてきたのが戦争法(安保法制)だった。あり得ない会期延長の長さも、議論の立ち往生も。ルールなど無視の暴走。すつたもんだの挙げ句のこれが採決? という子どもたちに見せられないような見せ場付き。ペテン師

あ。眷属とは、親族。主尊に引き従う者。配下の者(新潮国語辞典という意味である)。神のお使いであるから神さんが目に見えるのと同様に、霊験あらたかなければならぬので、稲荷のギツネは「白狐」である。稲荷の神さんは、下、中、上の社に祀られているが、白狐もそれぞれ阿古町(あまの)下の社、黒鳥くろの社、小薄(こすずき)上の社と風雅な名前がつけられ、神さん名が付与されている。位が高いのである。白狐社があり社殿の横に穴がある。

があつた。「憲法を暮らしの中に生かそう」。「日本の夜明けは京都から」の鼓動が脈打つていた。都から、70年代の初めだ。大、学入学の夏、京都女子大での、「日本母親大会」に参加し、「若者たち」の映画に興奮した私だった。今、日本国憲法を読みなおしても色あせない。格調高く、ああ、そうなのか、と襟を正す思いがする。今、若い大学生、のみならず、高校生、いや中学生までも法案は「違憲」であり、民主主義は、俺たちで作つていくもの、自分たち国民にこそ主権がある、と叫び出した。嬉しい、感動的なスピーチがいくつもきけた。初めての、シルバークロウイックは爺婆が子孫にご馳走ということになったが、ゴルフ三昧とかで、「経済最優先!」と吠えるだけの首相に言いたい。諦めてないよ、「チーム憲法」がこれからは、戦争法案白紙撤回を、と叫ぶよと。出るところに出、決着をつけよう。なんせ、ノーベル平和賞候補なんだ、憲法九条は。



刺鉄線。あ。頃の京都がよかつたなあ、という原点

色々な説があるようだが、稲荷の神さんは豊業の神さで、ギツネは穀物を食い荒らすネズミを好物とする。農事が始まる春に山からおりて里にあらわれ、収穫が終わる秋に山に帰る。ギツネの色や尻尾の形が稲穂に似ている。とかである。

哲学者の梅原猛志さんは稲荷の神に關係が深い動物はもとギツネではなくオオカミであつたかも知れない」とも述べている。オオカミは正代日本人にとって獣の中で最も崇敬された神であり、アイヌにおいても、オオカミは獣の王者として厚く敬われる。それで「大神 真神」とも書かれているという。稲荷大社は空海と関係が深い、空海が高野山を開くにあたりて許可を得たのが狩場明神という狩猟神で、この神の眷属が山犬であつたという。山犬とオオカミはほぼ同じもので、伏見稲荷大社の眷属もかつてはオオカミであつたのでは、それがいつのまにか里に住むギツネに置きなされたというのである。まあ、神さんごまつた話であるから、色々と想像をめぐらすと、とほまきやうが、日本土由来の山の神、田の神に關係する興味深い話、はあ。

京都&東山 ぶらりピカリ

63

七条通

東本願寺の 噴水と枳殻邸

⑥ 祖母に水道水を無駄に使うと叱られた。



水道料は不要だった。

先月号に東西の本願寺の事を書き、ふと、高校通学時に見た勢い良く水を吹き上げている「東本願寺の噴水」思い出し、あれだけ年中水を使えば「水道代は大変だろう」と気になって調べた。何と、噴水の

東本願寺は、江戸時代4度(天明8年(1788)文政6年(1823)安政5年(1858)元治元年(1860)火災に遭っている。今のお寺は、明治時代に建立された建物。前の「ほすの花」イメージの噴水は、大正7年(1918)に完成し、後に補修されたもの。現在の噴水は補修後の2代目です。設計は、武田五一(円山公園・市役所を設計)、デザインは日本画の竹内栖鳳のゴールデンプンビです!

さて、噴水の水ですが、東本願寺は度々の火災の対策として、明治30年(1897)「本願寺水道」を造った。それは、琵琶湖疏水の東山蹴上船溜(げあげふなだまり)で分水され、地下導水管で二条・祇園・四条・五条大橋の下から、渉成園 枳殻邸(きこくち)の庭をう

るおし東本願寺迄来る。火事の際は、蹴上船溜と東本願寺の高度差

(48メートル)を利用して 東本願寺の御影堂、阿弥陀堂の屋根の上まで放水できる防火用水を蓄えていた。水道は東本願寺の堀にも流れ、御影堂の前噴水の水を供給している。そんな事情で、初期投資は多く、管理費は要するが、我ら貧乏人が水道料の心配をする事は無用だった。

鳥丸通は、京都駅から、北に向かう京都市電が通っていた。1912年(明45)京都市電の烏丸線が計画された時、東本願寺は京都市に、東本願寺の門前では市電を迂回させるよう申し入れ、京都市は受け入れた。市電は無くなったが、道路は今もそのまま。

枳殻邸



河原町七条上る西側土堀で囲まれて(渉成園) 枳殻邸がある。池泉回遊式庭園をもつ東本願寺の飛地境内地(別邸)。1912年(寛永18)に三代将軍・徳川家光から当地(約一万坪)が寄進され、石川丈山の趣向を入れた作庭(安政5)で、園内の諸殿は1898年(元治元)の二度にわたって焼失。現在の建物は明治初期から末年(ころ)に至る間に順次再建されたものだと言われ、庭園には四季折々の花が咲きほこり、変化に富んだ景観は「十三勝」や「十景」と称され、高い評価がなされている。(入場料300円) ©本願寺水道は、五条大橋裏に「配水管」が見える。

は、蹴上船溜と東本願寺の高度差

市電が走った 京都を巡る

56

福田静二



西大路通を
行く市電は、
車窓正面に左

大文字山を望んで、西大路下立売の停留場を出発しました。西大路通には商店やビルが混在した街並みが続きますが、道路幅がほかの市電通りと比べて広く、ゆったりとした雰囲気の中で市電は走りまわります。まもなく到着する、つぎの停留場が「大将軍」です。

交差する東西の道路は仁和寺街道で、西へ行くと京都府立体育館(現・島津アリーナ京都)や京都府立山城高校があります。府立体育館で催事があると、市電を降りた多くの人たちが西へ向かって歩いて行ったものです。大将軍は、字画だけ見ると市電の停留場名に似つかわしくない印象を受けますが、その由来は、停留場から北へ



左大文字を望んで西大路通に行く

行った一条通を東へ入った大将軍八神社から来ています。

大将軍八神社は、桓武天皇が平安遷都に当たって、大和から勧請し、王城鎮護の願いを込めて都城の四方に祀った社と伝えられています。大将軍とは、陰陽道では皇神大将軍と呼ばれ方位を司る神様です。その位置は、創建当時から現在まで変わっていません。ほかの神社は、創建当時と別の場所に移された例が多くありますが、大将軍八神社は、位置そのものが大切であったため、場所を移されることはなかったのです。

とくに家の新築、修理、転居は、方位に気を使う事柄で、京都の家では、大将軍八神社のお札が壁に貼ってあるのは、よく見受けられる光景です。私も、自宅の新築の時、両親とともに神社へお参りしたことを覚えています。

ところで由来の大将軍八神社の読みは「だいしようぐん」ですが、付近の行政地名、停留場名は「たしようぐん」と「だ」と「た」の違いがあります。言い易いように、地名の読みが転化するのには、よくあることです。ただ、ただで読み易くなったとも思えず、その経緯は不明です。実は私も出版した京都市電の本で、うっかり停留場名を「だいしようぐん」と読みを振ってしまい、人に指摘されて初めて間違いに気がついた次第です。

大将軍八神社のある一条通は、商店が建ち並び、賑やかな大将軍商店街となっています。いまでは、「妖怪ストリート」と銘打ち、さまざまな妖怪イベントを企画し、妖怪によるまちおこしをしています。一条通は平安京の北端に位置し、南は平安京の内、北は平安京の外で、一条通は日常と未知の世界線であり、二つの世界の住人、人間と人間以外のモノが出会う場所でもあったからです。

西大路一条の角にも、東側に土堀に囲まれた神社が見えます。八重散り椿で名高い椿寺です。正しくは浄土宗地蔵院と言われ、加藤清正が朝鮮から持ち帰って、豊臣秀吉に寄進したと言われ、伝承の椿があります。

西大路通と交差する仁和寺街道、一条通には、御室方面に向かう京都市バス、JR路線バスが、市電時代から変わらず今も走っています。今でこそ付近の要衝は、北の白梅町付近に移っていますが、昔から歴史・文化の中心として栄えてきた大将軍でした。



大将軍に到着した二両の市電

酒屋で生きて 生かされて



第七七話

仕方なく酒屋に 専務の横暴

個人経営を
整理し法人の
乙酒卸免許を
得て会社はスタート。業績は向上
した。当時、私は、ドブプリと政
治運動に関わり家出状態。家や店
の将来は弟當時は兎に任せれば良
いと思っていた。が再建支援に、
私の参加が有り、仕方なく「勤務
時間以外の政治活動は眼を瞑る」
との条件付で事業に参加した。
債権者代表で、大口債権者E酒
造の若い当番指野S氏が、常勤専務
に就任した。ところが、彼は、夜
になると販売担当社員達を引き連
れて、祇園町等で豪遊をする。
S氏は、E社では20才代の平社員。
出、専務になり無い上がったのと、
古い販売員との意思疎通のためか
とも思った。が、余りにも「経費
使い過ぎ」を何度か注意したが聞
き入れ無い。ブツ切れて、彼を専
務とし派遣したE酒造に赴き、同
社専務と社長に直接談判、交際費
明細を見せて対処を求めた。同社
は、彼を直ぐ引き取って呉れた。
彼はズーと後、(E酒造の)役員なっ
た。その彼の没後、「あの時のお
灸のお陰で出世ができた」と言っ
てた。聞いて、昔最後立てて良かった
会社は順調、債務も徐々ではある
が減った。そこへ「融手事件」が
起り銀行融資がストップする。
個人時代の債務半額棚上げでスター

トしたが、債権者中の一社(酒造会
社が、それでは資金繰りに困る
との事、債権者団了解を得て「融
通手形」で対応した。三年程経過
時「融手」の事が、取引銀行に
(当社手形が高利貸裏印取立て)パレた。
世は、超金融引締時代、途端に当
社の融資がストップされた。その
酒造会社は倒産。当社が振出した
(融通)手形は、高利貸に渡ってい
る。回収しないと当方も連鎖倒産
危機。前以て「高利貸」を充分に
調査、名古屋へ交渉に行った。そ
の酒造会社不動産は銀行が担保設
定済み。貸金業は「裏の仕事」と
判った。これは、取り戻せると確
信し、父の友人に(証人)同行をお
願ひし訪問。一時間余の交渉結果
当社の振出した(融通)手形は全て
取り戻した。(手法は秘中の秘)(株
酒谷本店は、一難は越えられた。
23才の時だった。

いづも 編纂史子



Fumiko Kousei

季節はすっかり秋。皆さんは季
節の移り変わりを何で感じるでしょ
うか。
ウクレレとギターで歌のないポッ
プスを生み出しているフラーリーパ
ッドは、四季折々の風景を音楽で描
くことがあります。春の芽吹き、
夏の星空、秋の芳香、冬の空気。
京都という、都会でありながら自
然に恵まれた環境に生まれ育った
ことが、二人に季節の移り変わりを
自然に見出す感性を養わせた
のでしよう。
秋を感じる光景の一つに、大空
に広がる雲があげられます。夏が
終わり秋へと季節が移り行く様は、
空の高さと雲の形状が教えてくれ
るものです。秋の雲の代表格と言
えば巻積雲。うろこ雲、やいわ
し雲と呼ばれる。空一面に
広がる小さな雲片の集合体です。
空の青さと雲の白さのコントラスト
そしてどこまでも続く雲の群れ。
その光景にどこか郷愁感を抱くも
のです。あの雲の彼方に、遠く離
れた故郷や、忘れかけた昔の想い

行事をやっている以上、老若男女
関係なく対象なんだぜ。
しかし人間のはみ出し者ってのは
考え物だ。僕達は確かに夜の世界
のモノだけど、長の言う事は聞く
し、この世界のルールも守る。で
も人間の悪い奴ってのは、ルール
も守れないし、先輩の言う事も聞
かない奴ばかりだ。長は新入りの
指導をしると言うけれど、手に負
えない者どもばかりでこちらの監
獄もイッパイだ。こういう事もあ
って最近、何だかちよつとこちらの
空気が変わってきている。さて今
年、長は僕達にどういふ命令を出
すのだろう？
有名入、ジャック・オ・ランタン
コウモリに着いて毎年人間界に
行くんだけど、なんじゃこりやつ

編集後記

▽もう81才にな
り、幼年時代の
知る人も少ない。幼年時代の
私の評価 夫人しくて気の弱い
子」だった。
▽病弱で躰も小さく、風が強い
日は、外での遊ぶ事も拒んだ。
小学時代、体操授業は免除、教
室で本を読んで過ごした
▽六年生の時、学童疎開が始ま
った。私は「集団疎開」は無理だろ
うと、曾祖父迄が住んでいた炭
山今は望遠に「縁故」を頼り疎
開した。
▽そこは当時、電気ガスも無く、
道路も細く山道を数キロ歩き町
に出る。新聞は三日分が纏めて
来る僻村だった。(今は、東山から陶
磁器関係者の移住で人口が増えた)
▽疎開で「厄介をお掛けしてい
るから、その家のお手伝いす
るから」と、祖母に滾々と言いつ
けられていた。
▽朝起きて、鶏にエサを与え、鶏
小屋掃除。帰校後な、山小屋
迄「薪・割木」を取りに行く。
▽もう一人の疎開児と一緒に。▽
野菜嫌いだつたのだが、そこは魚
屋も肉屋もない。嫌いだつたトマ
トやキュウリの、おいしさが判り
食べられるようになった。
▽疎開の6ヶ月間は、一度も病
気にならず過ぎ、以後も見違
えるほど健康な身体になった。
▽もし戦時疎開が無かつたら、今
までは生きていないだろう。
▽幼くして、他人の中で生活し
た経験は、我がままだった私の
生き方に随分役立つと思ってい
る。諺には、他人の飯を食え
とある。

て感じだね。何だか秩序も無けれ
ば規律も無いし、規則は無視する
し、僕達にだって分かる倫理や常
識が無い奴が多い。何で僕達にそ
んなちゃんとした事が分かるかっ
て？何が悪くて何が良いのか知
てなきや、然るべき奴を連れて帰
れないでしょ！そんな僕達夜の住
人も分かる普通・常識のレベルが
かなり下がってきている人間って、
一体何なんだろう？僕は今年も人
間界に行くよ。でもねえ、正直そ
んな奴等連れ帰りにたくないんだ。
だってこちらの世界に来てても邪魔
なだけなんだもん。いっそのこと、
人間界を夜の世界よりも暗い闇の
世界にして、夜の世界のモノの監
獄にすればいいと思うんだ。良い
案でしょ！

▽過保護時代の今の日本。次世
代の日本は大丈夫だろうか？



僕の名前は、 コウモリ

月三天

皆さん僕を
ご存知かな？
黒いボディ
に黒い羽根、
耳は、尖がっ
てる奴や小さい奴がいる。鼻も、
豚鼻の奴がいたりする。その中で
も僕は、魔女に可愛がられるくら
いカッコいいコウモリだ。
毎年十月の最終日、夜の谷の奴等
を引き連れて人間の世界にお邪魔
する。で、僕達は何をするかって？
僕達は僕達の長に言われ
て、悪い事をしている人
間を引き込むように言わ
れてるんだ。子どもは、
事だと思っている人間は、
日本という国において多
い。でもなあ、こういう